



## 2012年度末 信用金庫の個人預金口数の動向

とね かつゆき しなだ ゆうし  
刀襦 和之、品田 雄志

### ポイント

- 全国信用金庫の2012年度末の個人預金口数は、前期比1.6%減の13,711万口となり、14年連続で前期を下回った。
- 預金種類別の個人預金口数の内訳は、要求払預金が49.6%の6,809万口、定期性預金は50.2%の6,895万口などであった。2002年度末からの増減状況を見ると、要求払預金が9.0%減、定期性預金は20.2%減となり、なかでも定期積金の減少は42.2%に達した。
- 地区別の個人預金口数は、全11地区で前期比減少した。2002年度末と比べると、全11地区で減少しており、なかでも北陸、九州北部、南九州、東京での減少が目立つ。
- 2012年度中における信用金庫別の個人預金口数と残高の増減状況は、①口数・残高ともに増加が32金庫(構成比11.8%)、②口数・残高ともに減少が61金庫(22.5%)などとなった。
- 個人預金口数の推移を国内銀行と比較すると、信用金庫では口数の減少が続く一方で、国内銀行は新形態銀行の台頭などから3年連続で前期を上回っている。

※本稿は、日本銀行「預金者別預金」より作成した。

### 1. 個人預金口数の状況

全国信用金庫の2012年度末の個人預金口数は、前期比232万口、1.6%減の13,711万口となった(図表1)。

個人預金口数は、新規口座の獲得が伸び悩むなか睡眠口座の解約等が続いており、1999年度末以降、14年連続で前期を下回っている。

個人預金口数を預金種類別にみると、2012年度末は、要求払預金が前期比81万口、1.1%減少の6,809万口(構成比49.6%)、定期性預金が150万口、2.1%減少の6,895万口(50.2%)などとなった(図表2)。

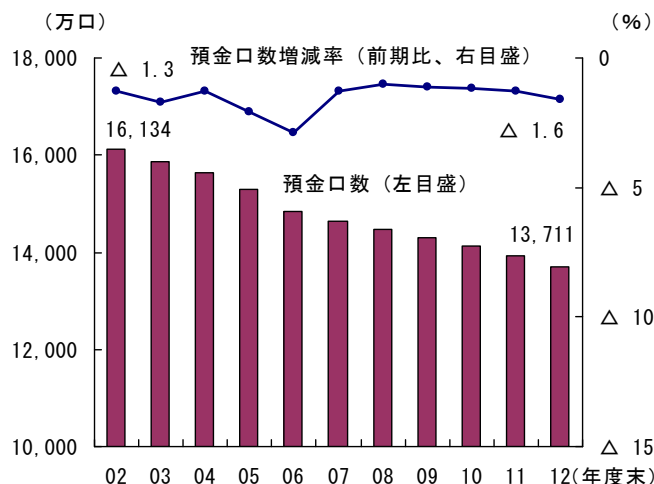
2002年度末の個人預金口数と比較すると、要求払預金は678万口、9.0%減、定期性預金は1,748万口、20.2%減となった。

さらに、要求払預金の内訳をみると、要求払預金の95%超を占める普通預金が461万口、6.5%減少した。一方、定期性預金では、定期積金が659万口、42.2%の大幅な減少となり、定期預金も1,089万口、15.3%減となった。

### 2. 地区別の状況

2012年度末の地区別の個人預金口数は、北陸が前期比3.5%減の462万口、九州北部は2.7

(図表1) 信用金庫の個人預金口数の推移



(図表2) 信用金庫の個人預金口数の預金者別内訳

(単位: 千口、%)

	02年度末	12年度末	02年度末対比	
			増減率	増減数
当座預金	648	314	△51.4	△ 334
普通預金	70,533	65,919	△ 6.5	△ 4,613
貯蓄預金	3,487	1,746	△49.9	△ 1,740
通知預金	4	4	3.2	0
別段預金・納税準備預金	207	105	△48.9	△ 101
要求払預金計	74,880	68,090	△ 9.0	△ 6,789
定期預金・据置貯金	70,835	59,945	△15.3	△10,890
定期積金	15,601	9,007	△42.2	△ 6,594
定期性預金計	86,436	68,952	△20.2	△17,484
外貨預金等	24	72	194.6	47
合計	161,342	137,116	△15.0	△24,226

(備考) 外貨預金等は非居住者預金を含む。

減の 288 万口など、全 11 地区で前期を下回った（図表 3）

2002 年度末と比較すると、全 11 地区で口数の減少がみられる。なかでも北陸（20.8%減）、九州北部（20.6%）、南九州（20.5%減）、東京（20.0%減）の 4 地区は、減少率が 2 割を超えた。

### 3. 信用金庫別の状況

2012 年度中における信用金庫別の個人預金口数と残高の増減状況は、口数・残高ともに増加が 32 金庫（構成比 11.8%）、口数減少・残高増加が 176 金庫（65.1%）、口数・残高ともに減少が 61 金庫（22.5%）などとなった（図表 4）。そのほか、口数増加・残高減少の信用金庫は 0 金庫だったほか、残高の増減なしが 1 金庫あった。

口数が増加した 32 金庫をみると、7 金庫で 2011 年度から 2012 年度中に総店舗数が増え、2 金庫で減っている。

### 4. 国内銀行との比較

2012 年度末の国内銀行の個人預金口数は、前期比 306 万口、0.3%増の 7 億 8,356 万口と、3 年連続で前期を上回っている。

2002 年度末からの推移を比較すると、信用金庫は減少傾向にある一方で、国内銀行については下げ止まり感が現れつつある。

この要因のひとつには、新形態銀行<sup>注</sup>の台頭がある。統計は異なるが、新形態銀行における 2012 年度中の口座増加数は、164 万口座に達しており、国内銀行の預金口数増加分の過半を占めたと考えられる。

以上

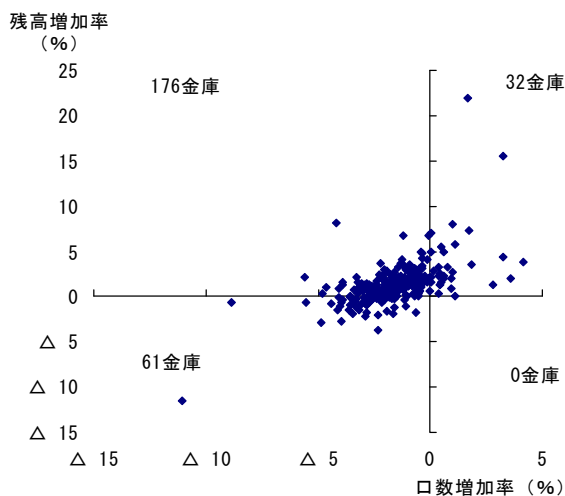
（図表 3）信用金庫の地区別の個人預金口数

（単位：万口、%、金庫）

	02年度末	11年度末	12年度末	02年度末対比		11年度末対比		金庫数
				増減率	増減数	増減率	増減数	
北海道	714	652	641	△ 10.2	△ 73	△ 1.6	△ 11	23
東北	776	672	663	△ 14.5	△ 113	△ 1.3	△ 9	27
東京	2,462	2,008	1,968	△ 20.0	△ 494	△ 1.9	△ 40	23
関東	3,277	2,805	2,753	△ 15.9	△ 524	△ 1.8	△ 52	49
北陸	584	479	462	△ 20.8	△ 122	△ 3.5	△ 17	17
東海	3,268	2,918	2,883	△ 11.7	△ 385	△ 1.1	△ 35	39
近畿	2,888	2,586	2,550	△ 11.7	△ 338	△ 1.3	△ 36	32
中国	901	752	736	△ 18.3	△ 165	△ 2.1	△ 16	21
四国	351	331	329	△ 6.2	△ 22	△ 0.6	△ 2	10
九州北部	363	296	288	△ 20.6	△ 75	△ 2.7	△ 8	13
南九州	521	421	414	△ 20.5	△ 107	△ 1.6	△ 7	15
合計	16,134	13,943	13,711	△ 15.0	△ 2,423	△ 1.6	△ 232	270

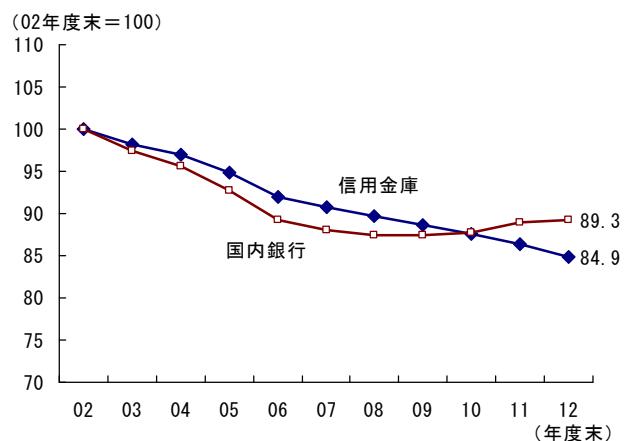
（備考）沖縄県は合計に含む。

（図表 4）個人預金口数と残高の増減状況  
（信用金庫、12 年度中）



（備考）残高の増減なしを除く。

（図表 5）個人預金口数の推移  
（信用金庫、国内銀行）



注 ジャパンネット銀行、セブン銀行、ソニー銀行、楽天銀行、新銀行東京、住信 SBI ネット銀行、イオン銀行、じぶん銀行、大和ネクスト銀行の 9 行。口座数は公表数字を合算。定期預金通帳等の場合は預入 1 件ごとに 1 口とすることなどから、口座数と口数は一致しない。

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。